

梅雨の合間に、家内のジパングクラブで『トレンタ君』を購入し、東北の旅に出た。ところが...

6月13日(金)

どうも良くない日だな、と思いながら 6:30 家を出る。

間々田発 6:56 宇都宮発 7:54 やまびこ 43

盛岡駅で日産ティータを借り、カーナビを角館に設定して出発。途中ラジオで明日のチャグチャグ馬コのお披露目が見られるという放送を聞き、急遽、滝沢村の蒼前神社に方向転換する。お披露目は2回、たくさんのアマチュアカメラマンや付近の幼稚園の園児たちの声援の中を馬コの列が進んだ。

国道 46 号線を角館に向かう。

途中、道の駅の蕎麦処『しずく庵』で昼食をとる。さすが本場、美味しい蕎麦であった。

角館プラザホテル 14:00 着

秋田県仙北市角館町横町 46 Tel 0187-54-2727

チェックインして市内の散策に出る。

金曜日のせい、観光客はまばら。緑が降るような武家屋敷街を歩く。



青柳家の欄間の彫刻



町民住居の火災の類焼を防ぐ防火帯跡



ホテル正面の小料理屋『月の栞』Tel 53-2880 で夕食をとる。

秋田産の岩牡蠣と辛口の地酒に舌鼓を打った。



余震警報を出しながら巡回する地元の消防車

6月14日(土)

朝食を済ませ、部屋に戻ってテレビを見ていると8時44分、緊急地震速報が流れ、おやっと思っているうちに激しい揺れが来た。窓の外を見ると車を降りて道にたたずむ人や家から飛び出した人たちがたくさん見える。慌てて部屋のドアを開け放ち揺れがおさまるのを待った。テレビでは、震源地は宮城県一関付近で震度6、引き続き同程度の余震が来る恐れがあることを何回も報じていた。地震が来る前に警報が出るようになった。

さすがが気象庁だな、と思いながら荷物を整理してチェックアウトのためフロントに行く。一瞬ためらいながら5階から1階までエレベーターを使った。地震発生からチェックアウトまでの間、エレベーターの使用も含めてホテルからは何の案内も無かった。フロントで「ずいぶん揺れましたね」と言うと、「そうですね」だけ。せめて宿泊客に被害の有無の確認や心の動揺を気遣うような対応があるべきと感じた。最近国内外で大きな地震災害が起きているのに、それが危機管理に活かされていない、と思いながらホテルを後にした。

朝、隣の席で朝食をとっていた老夫婦のことがふと気になった。

(危機管理については、帰宅後 web を通してホテルの『お客様の声』にフィードバックした。)

角館駅 JRの駅舎に隣接して秋田内陸線角館線の駅舎が並ぶ。地震で全面運休、駅構内は電話をかける人などでごった返していた。ロータリー横には歌人・小杉放庵がこの地で詠んだ歌碑がある。小杉放庵は栃木県日光市の生まれで越中八尾のおわら風の盆の歌詞を作ったことでも知られている。県道105号を北上し田沢湖に出る。金ピカの『たつこ像』を見ながら湖の南岸を回る。湖面は静かで鏡のようだった。



瀧分校 田沢湖町立生保内小学校の分校。昭和49年に廃校となったが『思い出の瀧分校』として保存され、近年は、コンサートや写真展などさまざまなイベントに利用されている。



花が一面に咲く校庭と古い校舎



時間が止まったように保存されている教室

八幡平アスピーテラインをドライブする予定であったが天気が悪そうなので小岩井農場に向かう。

小岩井農場 着いた時は夕立のような雨。牧場の散策はあきらめ、木彫り展示場を見学した。家内は売店でヒバの分厚いまな板を買った。

石川啄木記念館 26才の短い生涯の記録と直筆の書簡やノート、遺品などを見る。



啄木が代用教員をしていた浜民尋常小学校(左)と当時彼が間借りしていた斉藤家(右)



代用教員として教壇に立った教室、窓は障子だった

盛岡駅 15:30着 案の定新幹線は終日運休となっている。しかたがないのでみどりの窓口で並んで帰りの乗車券を払い戻し、東京までの高速バスの切符を手に入れる。盛岡発は23:10、7時間余り駅の構内で待つ。

6月15日(日)

東京着 6:30 上野発 7:00 間々田着 8:09

当初の予定より12時間の遅れ。国際便の時差ボケのような状態で帰宅。

貴重な体験をした東北の旅であった。

岩手・宮城内陸地震で亡くなられた方のご冥福をお祈りすると共に被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。



みどりの窓口は長蛇の列 高速バスの切符

